

上州太田

【公益社団法人太田青年会議所2020年度スローガン】

地域を輝かせる波紋を広げよう！人と人との繋がりを育み活気溢れる太田JCで新たな一歩を



年頭のご挨拶

公益社団法人太田青年会議所 2020年度

第56代理事長 塚本将成

新年あけましておめでとうございます。本年度、公益社団法人太田青年会議所の第56代理事長を務めさせていただきます。塚本と申します。どうぞよろしくお願いたします。2019年度では、深澤理事長の掲げる「今を全力で生きろ！すべては未来のために」のスローガンのもと、太田青年会議所創立55周年の節目の年を、歴史に感謝し、次の節目である60周年に向けてビジョンを示すことで、メンバー全員が未来へ駆け出す機運を高め、太田青年会議所、さらには太田を次のステージへと引き上げるため活動して参りました。また、「ワールドコネクション」「おおた100kmアドベンチャーウォーク2019」「太田 de トラウト2019」を始め、様々な事業に多くの皆様にご参加いただくことが出来ました。昨年の活動が滞りなく終了することが出来ましたのも、各事業にご支援を頂きました各企業、関係諸官庁並びに諸団体の皆様、各事業にご理解を頂きご参加いただきました地域の皆様、そして、多くのご指導とお力添えを頂きました太田青年会議所OB会の皆様方のご協力の賜物でございます。改めまして、心より感謝申し上げます。

2020年度においては「地域を輝かせる波紋を広げよう！人と人との繋がりを育み活気溢れる太田JCで新たな一歩を」をテーマに運動を展開して参ります。メンバーが一丸となって、60周年へ向けた新たな一歩を踏み出し、地域のために、大切な人たちのために、日々邁進していく所存です。そのような中で何よりも大切なのは、太田青年会議所の組織としての基礎を確実に固めていくことだと考えております。近年、歴の浅いメンバーも増えているため、「歴の若いメンバーは新たに」、「歴の古いメンバーは改めて」しっかりとしたJAYCEEとしての知識を学んでもらう機会をつくることで、まずはメンバー同士が絆を強め合い切磋琢磨できる環境をつくり、互いに成長をして参ります。自分が成長すれば関わる人も成長する。それが波紋のように広がることで、この地域も輝き活性化するという一連の流れを起せると確信しております。本年も皆様の変なぬご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様のご多幸をご祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。一年間何卒よろしくお願いいたします。

塚本：濱本さんとは、2013年に（当時の）荒木委員長が演劇をされたときに初めてお会いしました。私も入会2年目で右も左も分からず、荒木さんに副委員長をやってくれと言われて。初めて演劇に触れさせていただいて、こんなにすごいものがあるのかと衝撃でした。濱本さんとしても、そういうことを単独でされたのが初めてだったとか。

濱本：そうですね。私が作・演出を担当して、一般の方と演劇づくりをするのは、初めてでした。自分がプレイヤーで人を楽しませるというのをずっとやっていたのですが、作品作りで人が成長する姿を目の当たりにして、成長の材料に演劇・映画を使うというのは素晴らしいことなのではないかと気づき始めました。色々な人の日常がより豊かになったり、笑顔を増やしたり、人間として当たり前のことを、お芝居を使って恥ずかしさなくできるというか。「ありがとう」にしても、「愛してます」にしても、セリフに起こしておけば出来るという感じですね。（2014年の）塚本さんの事業の時に、前年に主演をやっていた女の子が2年目も受けてくれました。色々な子にチャンスを与えたいから、2年連続で主演は無いと最初から言っていました。お芝居をしていないときには小道具を作ったりしています。その子からしたら、去年は主役でお芝居の稽古ばかりだったのが、2年目は小道具づくりをする時間がすごく長くなりました。それで、その子のお母さんが、

もしいやだったらやめてもいいよ、といたらしいのです。そうしたら、私は去年、裏で小道具を作っていた人たちがいたから主演が出来たというのを知った、今こうやって作っているのが楽しいんだから2度といわないでくれと怒られたという話を聞いて、うれしくて。そういった感じになって欲しいという願いを込めてその役にしたら、それを感じてくれたんです。

塚本：よくJCも役割を演じると言います。青年会議所自体も、会社があって家族があって、そのほかの時間で行うもので、架空に近い部分があります。だからこそ、失敗しても大丈夫だよとかいうのがあります。人の成長というところで考えると、JCも同じような感じですね。今まで青年会議所は色々な事業を行ってきて、影響を与えてはきたのですが、青年会議所自体、昔のような結束力をもってどんどんやっていくという感じからは、若干離れてきているなどというのがあります。それは、上の側の人間もアプローチの仕方にも問題があって、うわべだけの付き合いになってきてしまっているからなのかなど。せっかくなので事業をやるにあたって、出てきてくれないとそれを知ってもらえない。内部がしっかりしていないと、外への発信も弱くなってしまふ。会としての魅力も少なくなってきてしまふのかなど。人数が減ると、やれることも減ってしまふ。中身に関しても充実させていきたいというのがあるのですが、その中でも今年55周年ということで特に青年会議所にクローズアップした演劇をやらせていただきました。こちらの意図するところ全てを具現化していただけたというのが、ありました。

濱本：55周年のときは、青年会議所の皆さんをキャストに使って、青年会議所の皆さんの心を鼓舞するようなストーリーということで、ホームページを拝見させていただきました。すべては未来のためにということで、まさに私自身も思っていることです。大人が、生き生きとして、楽しそうに毎日を送っていたら、子供たちがあこがれると思うんですね。子供は純粋なので、大人たちが利益と言い出したら、人と人とのつながりがどんどん薄れると思います。大人が一所懸命になる姿を見せなきゃと思います。何故かといえば、すべては未来のためなんです。僕の感性が変わり始めたのは、3.11が大きいんですね。10万年後の世界でも、子供たちに笑っていてほしいなと思っていて、そのバトンをつなぐのは今の大人しかいないと思っています。今の大人が一所懸命にやって、一所懸命に笑っ



第56代理事長 塚本将成

ていれば、未来は絶対に明るくなる。子供たちは生き生きして、子供たちが生き生きすれば未来も生き生きしてくると信じています。そのツールに演劇はふさわしいと思っています。青年会議所は、色々ないい仕事をいっぱいされていると思います。でも、子供と大人が同じフィールドで切磋琢磨できるのは、多分無いと僕は言えます。お芝居は、今回は僕が演出なので、僕が答えなのです。大人がどんないい芝居をしようと、僕が違うと言えば違う、子供が全然違う芝居をしようと、僕がそれいいねといえればいい。お互い同じフィールドなんですよ。

塚本：そこは、今年も関わらせていただいて改めて実感したところです。先ほど、青年会議所が演技に近いという話をしました。今のお話の子供たちというのがまさにメンバーであって、上役が大人。そして、いいねと駄目だというのが、青年会議所の世界なら調整がきくんですよ。いくら駄目でも今日の司会良かったよと褒めたり、いくらよく出来ていても調子に乗っているなどと思えば、ここはしっかりしておけよと叱ったりできる。

濱本：素晴らしいですね。お芝居以外にそういうことが出来ないと思っていたのですが、青年会議所の皆さんはそれをやっているということですね。

塚本：会社の大小や年齢を唯一超越できる。大会社の社長でも、後から入ってくれば後輩というのが成り立つおかげで、成長に繋がる。それがこの会の良さだったのかなど。

濱本：そうですね。それを意識してできるかどうかだともおいます。意識して出来ればすごいと思います。

塚本：今それに気付いている人があまりに少ない。青年会議所の場合はそれが成り立たなくなりつつあるというのが正解に近いと思います。役を演じているので



濱本 暢博 (はまもと・のぶひろ)

【プロフィール】

広島県尾道市出身。劇団の公演をはじめ、テレビ、映画、CMと多方面で活躍。近年では、アイドルや俳優のイベント等で司会もこなす。また、群馬県内を中心に、地域活性化事業の一環で、映画・舞台をその「まち」の人と創っている。

【映画作品】

- 2014年「漂泊」出演
- 2013年「グラス・ホッパー」出演
- 2011年「しゃんしゃんしゃんしゃんしゃんしゃん」出演
「タイムマシンカー」出演
- 2010年「ViVA!Kappe」出演
「虹の街」出演
- 2003年「幸福の鐘」出演

その役の人に対しては絶対に従うという形の演技ができないというか、その辺のバランスが崩れてきていて、昔と変わってきているのかなど。バーチャルな世界から、現実世界に近づいてしまった。青年会議所がリアルになりつつある。やるのであれば全力でやれば、演劇の事業みたいになるはずなんですよ。みんな仲良くなるじゃないですか。

濱本：そうですね。終わった後に皆熱いものがありますよね。そういうのがどんどん増えてほしいですよ。

塚本：今回対談させてもらったのも、自分が青年会議所活動をやってきた中で、出会いが大事だったというか。荒木さんに会っていなければ副委員長を受けていませんでした。荒木さんが濱本さんを連れてきて事業をやっていなければ、その翌年委員長をやっていたかなど。結局、青年会議所という狭い範囲で考えると、濱本さんは感謝の対象でしかないです。



濱本暢博 × 塚本将成

俳優・舞台演出

第56代理事長

濱本：僕にとっても感謝しかないです。お二人との出会いが僕の人生を変えたようなものですから。演劇が人を変えるというのは分かっていましたが、自分がプレイヤーをやめてまでとは思いませんでしたから。今回の55周年も、大人の皆さんも含めてもう一度やりたいと言ってくれたり、高揚感がいっぱいあります。またやりたいですね。

塚本：今回ほとんどの人が初参加でした。もう一度やって欲しいと言われて、ここまで望まれるとは思いませんでした。

濱本：親御さんが皆言っていました。子供が行くのが楽しそうとか、皆に合うのが楽しいみたいでとか。僕の夢は今回のようなことを色々なところでやること。分母を増やせば波及していくではないですか。今は年に1回とか、地域限定になっていますが、例えば年に5回になったら5倍に広がるわけです。

塚本：先ほど、やっている最中子供たちが楽しそうだったというお話を聞きました。できれば、こちら側の人間もそうしてもらいたかった。自分も稽古には参加させていただきましたが、すごい回数やります。毎週のように長い時間やっているけども、それが苦にはならなかった。青年会議所にとっても、次にこういう事業があるんだ、楽しみなという形になるヒントがあるんじゃないかなと思いました。

濱本：非現実のもの、しかもやったこともないことを同じ目的をもって作り上げるというのは、時間があつという間に過ぎますよね。この間、藤岡の街映画を撮りました。最後、舞台あいさつで夢は何ですかと主演の子が振られたときに、私の夢は青年会議所に入って多くの人を笑顔にすることです、と言ったんです。藤岡青年会議所の皆さんが撮影現場で汗水たらしていた姿が、彼女の中で格好良かったんですよ。事業が終わった後に、将来自分も青年会議所に入って一緒にやりたいという子が増えるくらい、やるべきです。やっぱり大人が一所懸命にやっている姿を子供は見ますから。

塚本：一緒なはずなんですよ。青年会議所も未知の体験をしています。例えば、100kmは不思議な事業で、

普段出てこないメンバーがああ事業だけ出てくるというのがあるんですよ。しかも、長年やっているの、歩く側の子供たちが、当時のお兄さんお姉さんに憧れて、ボランティアとして戻ってきたケースもあります。だからこそ、青年会議所の側がもう少し目立ってもいいのではないかなというのがあります。目立つことがいいことかといえばそうではないと思うのですが、縁の下すぎて、トレラン、100kmは良い事業ですねという話で終わってしまう。青年会議所という団体がやっている知らないんですよ。

濱本：意外に青年会議所という団体を知らない人は、すごく多いですよ。映画を撮っていても、親御さんも初めて知りましたとか。

塚本：せっかくいいことをやっているのであれば、少しでも目立てばやっているメンバーのモチベーションにもなります。日本人の考え方として目立たないところで頑張るといのが美徳ではないですか。自分もそういうのが好きな方なのですが、今のご時世で通用しなくなっているのかもしれない。折角いいシステムでいい事業でいいことをやっているのに、委員長を受けたくないとかあって。死ぬまでやれと言う人はいません。折角所属していて年会費を払っていて、役職をやらなかったらもったいないじゃないかと。自分もいい人に出会ったからこそ今こういう状態になっていると思うと、少しでも自分の経験を活かしながら未来に繋がるように、一人でも多く役職やってみたいですよという人が出る、来年1年をかけてそういう状態に持っていければなど。来年のその後もいいので、火種だけでも残せればと思います。

濱本：是非そうならただければ。素敵な事業をされている団体なので、活動が少なくなるというのは寂しいです。

塚本：本日はお忙しい中にも関わらず、ありがとうございました。私自身も来年理事長としてやっていく中で、メンバーに背中を見せていければと思うので、是非濱本さんにおかれましては、今後もよろしくお願いします。



2020年度 委員長紹介



会員資質向上特別委員会



特別委員長理事 戸川 悠介

2020年度会員資質向上特別委員長理事を務めさせていただきます、戸川悠介と申します。会員資質向上特別委員会では、青年会議所会員としての資質の向上と会員拡大に繋げるべく在籍メンバーが青年会議所の魅力、愉しさを今一度考え、体感し、それを全員で共有することで、我々の現在の立ち位置、存在意義を一年間再確認して参ります。皆さまのご理解とご協力をお願い申し上げます。

総務委員会



委員長 森 幹高

2020年度総務委員長を務めさせていただきます、森幹高と申します。2020年度総務委員会としましては、今の時代に合った変化や試みを取り入れながら会議と青年会議所活動の下支えをしっかり行う活動をして参ります。メンバーが最大限に輝ける環境づくりをすることで、メンバーの太田青年会議所への更なる興味と信頼と愛着が生まれ、ひいては青年会議所活動が今まで以上に活発になることを確信致しまして、一年間邁進して参ります。諸先輩をはじめメンバーの皆様、ご指導ご鞭撻の程、心よりお願い申し上げます。

広報渉外委員会



委員長 佐藤 崇史

2020年度広報渉外委員会の委員長を務めさせていただきます、佐藤崇史と申します。我々は先輩方から想いを受け継ぎ、己の研鑽を積み、多種多様な人と出会って友情を育み、様々な素晴らしい事業を行っています。私たちは自分の活動に誇りを持ち、自分たちが何をやっているかを積極的に発信すべきだと考えます。知っていただくことがさらなる自信に繋がり、それがまた地域への還元にも繋がります。そのために、広報渉外委員会は1年を通して様々な広報及び渉外活動に邁進してまいります。諸先輩方、及びメンバーの皆様、ご指導とご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

研修交流委員会



委員長 金井 政和

2020年度研修交流委員会の委員長を務めさせていただきます、金井政和と申します。2020年度研修交流委員会では、青年経済人に必要な思考力を、楽しみつつ向上させるような研修事業と、人と人との繋がりを大切に親睦を深める交流事業の二本柱で1年間委員会活動を行ってまいります。相互の理解を深めることによって、人の想いを汲み取ることでできるリーダーが増え、そこに人が惹きつけられることで地域が成長していくと信じ一年間邁進してまいります。諸先輩方をはじめメンバーの皆様、ご指導およびご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

人材育成委員会



委員長 小澤 和弥

2020年度人材育成委員会の委員長を務めさせていただきます、小澤和弥と申します。2020年度人材育成委員会では、若い世代に答えまでの過程を経験してもらい何事にも諦めない強い気持ちを持たせ、最後までやり抜くことのできる人材を育成したいと思えます。若い世代の成長がこの地域の発展に繋がると信じ活動してまいります。皆様の御指導、御鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

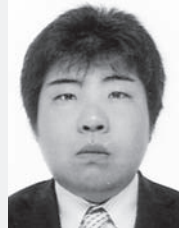
地域活性化委員会



委員長 磯山 慧

2020年度地域活性化委員長を務めさせていただきます、磯山慧と申します。地域活性化委員会では、自ら行動することが難しい人達に寄り添う事業を行っています。事業を通し様々な成功体験をしていただくことが、自信を与え一歩踏み出すきっかけになると確信し、一年間邁進してまいります。皆様のご理解、ご協力を心よりお願い申し上げます。

まちづくり委員会



委員長 寺内 岳仙

2020年度まちづくり委員会委員長を務めさせていただきます、寺内岳仙と申します。2020年度まちづくり委員会としましては、愛郷心の醸成とまちのために活動する人を増やす活動をして参ります。歴史や文化に触れ、興味を持っていただくことで隠れた魅力に気づきそして、地域の方々と協同し、魅力を発信することで、地域への愛着に気づいていただく機会をつくります。一年間邁進して参ります。諸先輩をはじめメンバーの皆様、ご指導ご鞭撻の程、心よりお願い申し上げます。

2020年度 出向者紹介



荒木隆師

公益社団法人日本青年会議所・社会グループサマーコンファレンス運営特別委員会・副委員長

このたび、2020年度(公社)日本青年会議所サマーコンファレンス運営特別委員会副委員長をやらせていただきます、入会4年目の荒木隆師と申します。来年度サマーコンファレンスのテーマは「World SDGs Summit」でございます。コンセプトは、「あなたの大切な家族や仲間の人生が豊かになる。そんな未来がきっとここにはある。大切な人たちとの未来を共に考え学ぶ2日間」です。SDGsを通して地球をよりよくしていく、人々の人生を豊かにしていく、そして今現在地球規模で抱えている問題を子供から大人まで一緒に理解を深め、今後の問題解決に繋げていければと思います。そしてひとりひとり小さなことからできる持続可能な世界にしていければと思います。太田JCそして自分の成長の為に日々邁進してまいりますので、ご指導ご支援のほど宜しくお願い申し上げます。



内山道広

公益社団法人日本青年会議所・関東地区・群馬ブロック協議会・会長
関東地区協議会・副会長

謹んで新春のお喜びを申し上げます。このたび、群馬ブロック協議会2020年度第53代会長の職をお預かりさせていただき運びとなりました。「意識の変革と絆で紡がれる希望に満ちた群馬の創造」を基本理念とし、JCがJCであり続けるために、先入観にとらわれず、様々なアイデアを取り入れながら運動を展開してまいります。また私自身、これまでの数回の出向経験を経て、群馬中に数えきれない仲間と出会うことが出来ました。互いに切磋琢磨しながらも、厚く友情を育むことが出来るよう、上州人の気質である義理と人情を重んじながら、全力で会務に取り組んでまいります。OB会の皆様方からの引き続きの御指導御鞭撻並びに、現役の皆様のご支援を心よりお願い申し上げます。



田村圭裕

両毛地域青年会議所協議会・両毛地域創造委員会委員長

両毛地域青年会議所協議会、両毛地域創造委員長を受けさせていただきました田村です。

出向は二回目ですが、太田青年会議所で培った経験を使い全力で活動したいと思っております。太田青年会議所の代表ということ背負い両毛地域を盛り上げていければとおもいますのでどうぞよろしくお願い致します。

2020年度 出向者一覧

(公社) 日本青年会議所		
委員会名称	役職	氏名
社会グループサマーコンファレンス運営特別委員会	副委員長	荒木隆師
	小幹事	神保攻大
	委員	糸井ゆう
	委員	小林聡
	委員	田口実穂
	委員	深澤利弘
委員	吉田聡	

両毛地域青年会議所協議会		
委員会名称	役職	氏名
	直前会長	小川隼介
	出向幹事	石井克弥
事務局	事務局員	五十嵐慶明
	事務局員	清宮豪
両毛地域創造委員会	委員長	田村圭裕
	総括幹事	柳大介
	委員	永井幸弘
両毛地域交流委員会	委員	小島圭介
	委員	重田和士

関東地区協議会		
委員会名称	役職	氏名
	群馬ブロック協議会 会長兼副会長	内山道広
国際人育成委員会	委員	二渡希望

群馬ブロック協議会		
委員会名称	役職	氏名
事務局	会長	内山道広
	運営専務	高橋佑介
	副運営専務	小川恭兵
	事務局長	市川進一郎
	事務局員	池戸潤
	事務局員	榎本一博
上州の魂実践委員会	事務局員	高野雄毅
	事務局員	山田宗平
	副委員長	岩崎貴行
希望溢れるJAYCEE育成委員会	委員	稲塚祐輔
	委員	原田正浩
群馬の力興隆委員会	委員	中村健
	委員	前島雄志
	委員	小堀翔太
	委員	光山航

